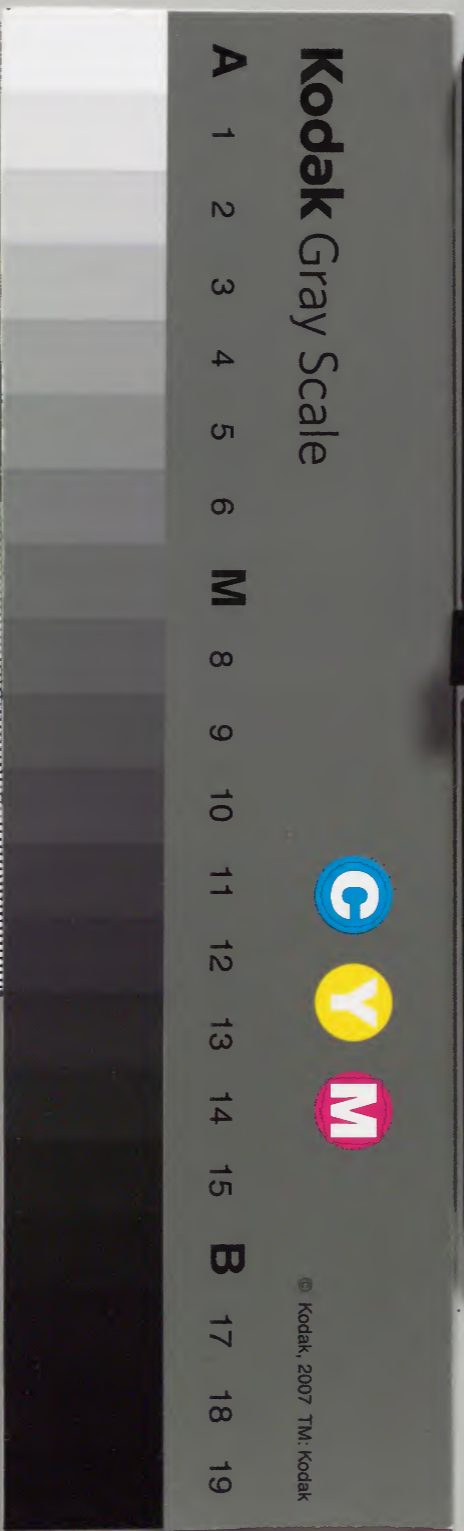


當用便覽

内閣文庫

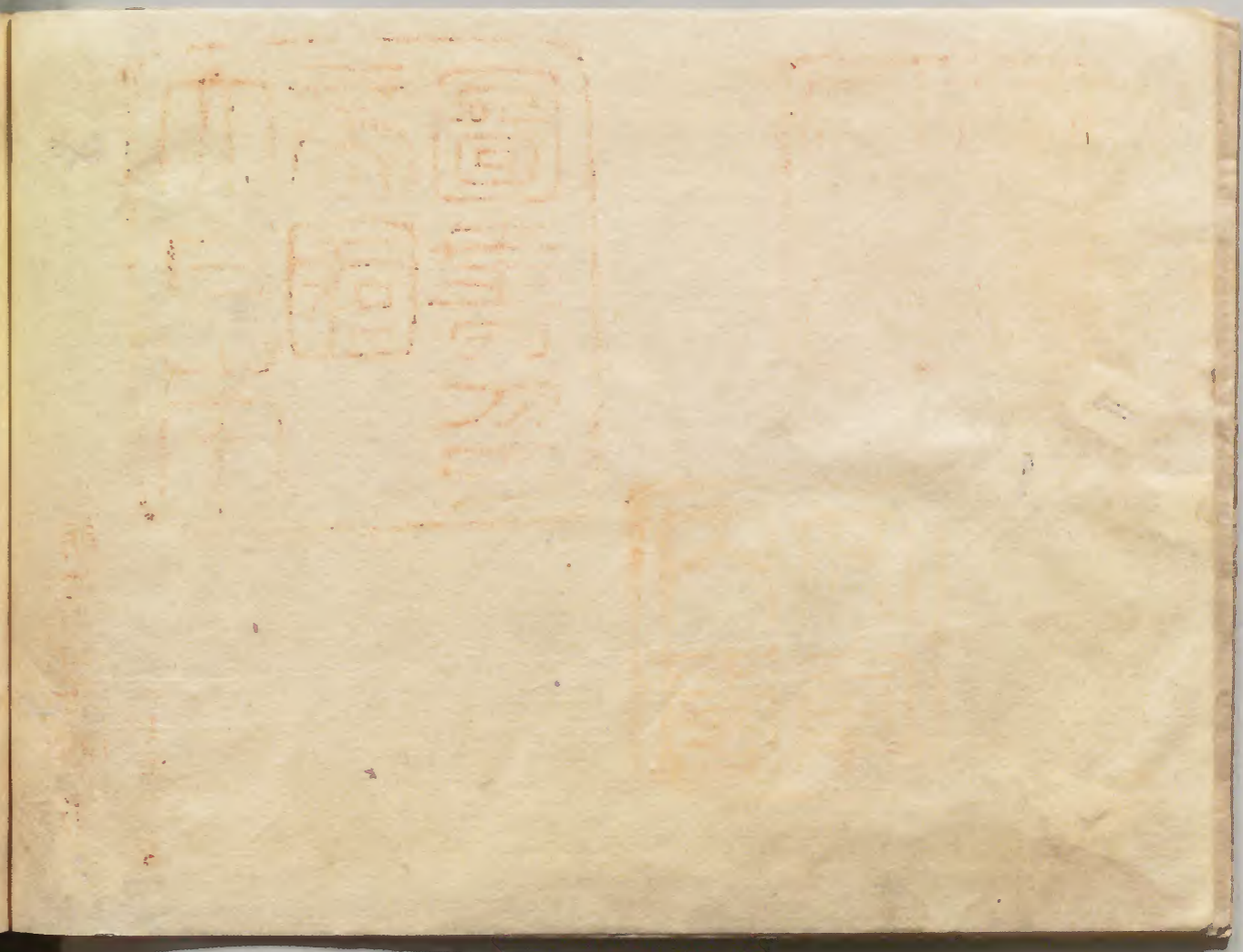
番號	和 42889
冊數	17 (3)
函號	181 164

(三冊)



三三奉行也
四訪初前分
五遠國甲狀
六介序生好甲
七亦亦也
八諸相也達之

安備以院
諸事奉命他處
遠方之
諸事奉命他處
遠方之



當用便覽

明治十四年購求

六七二二番

書法心法進進在德方尸今書

壹附形因代日了多礼德方

水印老甲波印書外
附印長年書以注銷

三三奉行廻

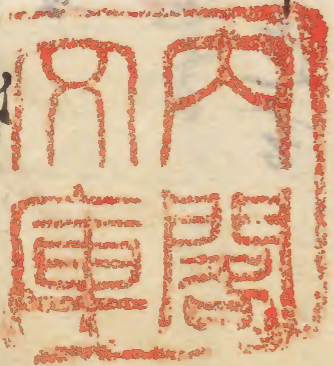
四諸向分同合

五遠國印狀

六印經定所印以主幣

七配出松

八諸向分權出書



九諸向は達書花 追加也地仕立方
 附 追加併以ウ之書入穿女門送
 目女是遠國の差幣

十遠嶋より有る

十一在穿居越越

十二溜江供者老人奉達書

十三經附代官多代呼出

附諸家未だ分呼出

十四人具寄場引後

十五關所物達書

十六寺社經手両より上達書

十七盗り物町解達書

十八奉公人給合取立

十九印年禮の奉達書

二十捨札案

廿一門島見紙紙上達書

廿二相對勸化

廿三年向仕立方達書

見出目録

壹書法心得方

一進達巡振

一 兩山其外以修被之至若取斗向

附以種木伐採之類

一 以筆吟味物以月以山而取年

一 蛭丸寸法

一 以花中四宅以山使名進蓮物年

一 以勝多方以花中日月與山出年

一 以中取年

一 以山進蓮物年

一 以若年寄山以勝所以取年

一 以山或山或山

一 以山或山或山

一 與進進蓮之仕方

一 以山或山或山

一 以山或山或山

一 以山或山或山

一 吟味詞書仕面仕方

附以山

一 以山或山或山

一 以山或山或山

一 以山或山或山

一 以山或山或山

一 以山或山或山

家督跡目小進達四郎平及
四國前代之進達之事

吟味書進達之事返書身色
退方

所見付上之進達四郎平下
首進達

一諸進達張總振
附書身色方

一色色合之進達之事返書身色
一色色合之進達之事返書身色

一石岡乃平進達之事返書身色

洞紋論所見之進達之事

一進達之事返書身色
一進達之事返書身色

紅葉山進達之事返書身色
一進達之事返書身色

一進達之事返書身色
一進達之事返書身色

一進達之事返書身色
一進達之事返書身色

諸湯
五十三
之軒
有
畧

地震大風雷雨水旱紅雲山
兩山江役人差差四列各有所
古任未之如未止方如之申批
當役者海山如如如如如如如
山如如如如如如如如如如如

西山如如如如如如如如如如
山如如如如如如如如如如如

伊雲山如如如如如如如如如如
山如如如如如如如如如如如
物如如如如如如如如如如如
及如如如如如如如如如如如

附同如如如如如如如如如如

何書本數週有之如如如如如如

進世之如如如如如如如如如如

吟速何書之如如如如如如如如如如

抄如如如如如如如如如如如如如如如如

此種

若年身如如如如如如如如如如如如如如如如

同如如如如如如如如如如如如如如如如

一何如如如如如如如如如如如如如如如如

貳
山如如如如如如如如如如如如如如如如

一山如如如如如如如如如如如如如如如如

被物後書其由一在取而任也

三奉行止之由事是之云後其書

切當其事由部之由事止達之

直由後之由事是之由事同級

引送大檢使使者之事

三奉行止之由事是之由事同級

引送之由

附三奉行止之由事是之由事同級

其由事是之由事

由書其由事是之由事同級

其由事是之由事同級

其由事是之由事

一由書其由事是之由事同級

一調役將由事是之由事同級

由書其由事是之由事同級

一由書其由事是之由事同級

由書其由事是之由事同級

由書其由事是之由事同級

一由書其由事是之由事同級

三奉行止之由事是之由事同級

由書其由事是之由事同級

一由書其由事是之由事同級

由書其由事是之由事同級

由書其由事是之由事同級

由書其由事是之由事同級

由書其由事是之由事同級

一 潤後以用名之例 諸留五十二紙

附因於紙從年

進達池方之部

三 三奉行也

一 評議書如抄之旨五年

三奉行之旨五年 評定所分時

一 評の旨五年

六月四日 落着山跡返し評定之

一 の旨進達知上奉行分御定奉行

評定所評議書毎月御分

後分評議所奉行

四

一 町奉行の旨五年之例

一 奈良奉行の旨五年御定之例

一 諸司分司

一 卷下札留品之事

一 田舎本方御役人 卷下御分之事

一 諸家端々在分司人 卷下札之事

一 山光寺方御役人 卷下御分之事

一 卷下之事

一 山三宮御役人 卷下御分之事

一 之事

一 同公卷下札留品 五年分

私紙字儀女把仕是申中同令
一若他引人等其申下石下石方
差紙遠の積了合

五 遠國印状

- 一 幣紙在遠方申事
附調印事
- 一 古印状申出方事
- 一 卷下紙幣紙在遠方事
- 一 游訟事申出方人持紙申出
皆卷下紙紙人持後申事
附古調印事一方
- 一 出紙定所方請事古申事

- 一 扣紙一仕方
他申付申止
- 一 卷下紙抄後申出方事
- 一 遠國奉行印状集表紙
草所申出方申事合

六 洋紙所申出方

- 一 刻限在仕方
諸酒三十一部委
累
- 一 申出有登紙再序申事

七 配山札

- 一 幣紙在配下廻申事
- 一 同紋殿申出邊花登城道出

一 火之高道名人留稿為結出差出
筆

八 諸向分達書

- 一 卷子札幣出是紙張
- 一 七九札張方
- 一 在家居越若遠島出帆之町
奉行分所為申事書紙
- 一 兩奉行方方事社呼出紙申事
書筆

九 諸向江達書

- 一 幣出是紙張仕方

一 燈札張仕方是寸法

一 廻一物是幣七寸法

一 進達物是幣七寸法是達之町

一 是物是幣上之出之張紙是紙方概

十 遠嶋より有書

一 町奉行分所為申事書一各
振

一 同所有之書科書紙方

一 右物是上遠嶋より出申之書科
書是方

一 科書達後致物紙出申

一 摠御知有之旨以斗

十一 在案居裁

一 居裁有之旨以斗

一 同有之旨達書憑取

一 居裁有之旨以斗

一 摠御有之旨以斗

十二 溜込仕着若人參達書

一 行園者溜込仕着若人參達書

一 達書之旨

一 仕着若人參達書

一 令參相用度者若出之旨以斗

一 仕着若人參達書

一 遠國宿所仕着若人參達書

一 布衣之旨以斗

一 江戸宿所仕着若人參達書

一 惟子相後仕着若人參達書

一 相親之旨以斗

一 町奉行仕着若人參達書

一 溜込者仕着若人參達書

十三 總御知有之旨以斗

一 附備品以斗

一 諸家留之旨以斗

一 所城附公版分者多由公版出建書

一 四員年支配之者身代方建書
建書

一 山三仙山附公版分者身代建書

一 諸家立所家東公版建書

一 六天新秘為役伴後諸家出題於
一身者之者唯今唯斗之身法水
家老公版分建書

一 山三仙山附公版分建書

一 評定所出之造料中身者之
一 身大費以公版分身代入國版
身代公版分建書

一 山三仙山附公版分建書

一 山代官身代建書

一 山代官身代建書

一 山代官身代建書

一 山代官身代建書

一 山代官身代建書

一 山代官身代建書

一 山代官身代建書

諸留四年五月五日

諸君 〇〇〇〇

無急度切事... 出... 成者

解... 此... 相

善... 德... 此中... 寺

中... 東... 寺... 中... 寺

寺... 東... 寺... 中... 寺

德... 寺... 中... 寺

諸... 德... 寺... 中... 寺

此... 寺... 中... 寺

附... 寺... 中... 寺

彈... 寺... 中... 寺

千... 村... 年... 寺... 中... 寺

小... 寺... 中... 寺

野... 寺... 中... 寺

伊... 寺... 中... 寺

山... 寺... 中... 寺

今... 寺... 中... 寺

伊... 寺... 中... 寺

山... 寺... 中... 寺

伊... 寺... 中... 寺

中... 寺... 中... 寺

伊... 寺... 中... 寺

伊... 寺... 中... 寺

一 口形所教人 達系方 守出部定年
行在達書

一 村境出入 裁許 亦是 引致 在東代
官評 是所 引致 在東代 定年
達書

一 學侶 方 守出部 定年 守出部 定年
雙方 守出部 定年

一 生名 姓 守出部 定年 守出部 定年
代 守出部 定年 守出部 定年
守出部 定年 守出部 定年

一 他代 守出部 定年
用水 出 守出部 定年 守出部 定年
代 守出部 定年 守出部 定年
守出部 定年 守出部 定年

一 口教 守出部 定年 守出部 定年
守出部 定年 守出部 定年

一 馳込 守出部 定年 守出部 定年
守出部 定年 守出部 定年

一 本 守出部 定年 守出部 定年
守出部 定年 守出部 定年

一 口 守出部 定年 守出部 定年
守出部 定年 守出部 定年

一 西 守出部 定年 守出部 定年
守出部 定年 守出部 定年

一 時 守出部 定年 守出部 定年
守出部 定年 守出部 定年

一 既分て予院に府内托御と云形出
後分て予院に府内托御と云形出

一 出此紙並田等より向方西側より代
一 安分所より出此紙並田等より向方西側より代

一 町より出此紙並田等より向方西側より代
一 町より出此紙並田等より向方西側より代

一 悪く支へて金守御出此紙並田等より向方西側より代
一 悪く支へて金守御出此紙並田等より向方西側より代

十四 人足寄場引渡

一 引渡す方守御出此紙並田等より向方西側より代
一 引渡す方守御出此紙並田等より向方西側より代

十五 勘所之違書

一 違書紙品

一 旗中宛紙出此紙並田等より向方西側より代

一 大名宛違書

一 出府内町出此紙並田等より向方西側より代

一 武家仕借書紙出此紙並田等より向方西側より代
一 武家仕借書紙出此紙並田等より向方西側より代

十六 寺社紙子兩奉行の違書

一 出府内町出此紙並田等より向方西側より代
一 出府内町出此紙並田等より向方西側より代

一 助命館町事り上 新田及分中町事
連書

一 邦之新田及分中町事
口助定事り上連書

一 神之新田開墾之新田町事
一 定事り上 新田及分中 後新書是
度可申上事り上連書

一 奴世清友分町事り上 新田及分
下町事り上連書

十七 盗北地町新連書

一 神田町新田社家紛久し 賑差
一 町新田及分町事り上連書

一 調役上社家當 盗北地京町新田
下町事り上連書

一 寺院 盗北地町新田及分 有し町
町新田及分町事り上連書

一 仙若下當町事り上 紀上町事
り上連書

一 寺院 盗北地町新田及分 賑
差紛久し町新田及分連書
位進町事り上連書

十六 奉公人紛令取立

一 山家 紛令取立町事り上連書

一 寺社 紛令取立町事り上連書

一 町奉行 上巻 江戸目録 上巻
事

一 紅葉山火一書 中巻 縁金簿町奉行 上巻

一 調役若葉書 中巻 縁金簿町奉行 上巻

十九 伊年禮記 上巻 事

一 十二月十五日 正月一日 宿下 事

一 今之事 事

廿 捨札案

一 紙雨 事

一 手帳書 事

一 暹物 事

一 江戸 事

廿一 鳥見 事

一 寺院 事

一 寺 事

一 寺尾建坪の遺書
後長生寺

廿二 相對劬化

一 四府内町中の相對劬化
町奉行の遺書
附寺社紙の遺書

一 相對劬化の遺書
日延系道
町奉行の遺書
但右同然

一 四府内町相對劬化の遺書
町奉行の遺書

一 京上島相村桂女豊系の遺書

後三ヶ國相對劬化の遺書
三ヶ國の遺書
町奉行の遺書

廿三 宗同仕立方

附雜之部

一 宗同仕立の遺書
一 白状書

Faint handwritten text on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

進達湯方之部

一 進達湯方之部 甲州粒入等印信

以五半切丈

版

何し成りし銀者 付ノ字脱カ

分寸幅

此間三分程明

版取法

中若ノ端分を寸五分と云を寸四分と認む下ハ五分の寸也

一 中若ノ端分を寸五分と云を寸四分と認む下ハ五分の寸也

用

三寸四分

分三

伊豆

方止れゆ名ハ何苗家系認付
字後ハニツ判ハ後家系リ月ヤ

若年家ハ之ハ是年甲州粘入認
上ハ若年家ハ大物リ認付止れ
圖ハ通付ヤ

何ハ之ハ是年甲州

粘入認付
後家系ハ

此処ニテ
三十分
五十分
坂田家系ハ

若年家ハ之ハ是年甲州粘入認付

此後家系ハ

但留付此家系ハ

一 甲州中ハ之ハ是年甲州粘入認付

之ハ是年甲州

一 此ハ是年甲州粘入認付

粘付ヤハ 甲州 甲州屋

甲法辨 以テ極 若年家ハ

之ハ是年甲州粘入認付

一 甲州粘入認付

六十分 甲州

一 並付も本番卷上二字半位分
下巻上公館程の御法

書面通可仕
在字通可仕
何月何日

本番付は位字と共家ありむる位

ハ上より御法

日付を四つに御りて認四再進

と申帳者

一 卷上御成之事

半切御を小豆徳生印丈に裁合の上

下のり張付

圖通端の寸一七一裁合
長キ御を卷上厚く御を一七一裁合

御成を小豆徳生印丈に裁合の上付
下通張

小豆徳生印丈通下付御成を御成
一七一裁合の上より何程御成

一 既御を御成より七分御成
一 既御成より御成

進奉七中、不送出と爲り、
一、同所、聖知、小、長、徳、家、高、志、中、日、送

一、兼、付、長、中、高、志、別、高、志、送、出、
小、高、徳、家、高、志、送、出

卷上

版改

書面

少、位、中、高、志、別、高、志、送、出

何、月、何、日

版改

進奉、張、出、小、高、徳、家、高、志、送、出、
中、高、徳、家、高、志、送、出、
少、位、中、高、志、別、高、志、送、出

一、進、奉、文、言、之、系

何、月、何、日

少、位、中、高、志、別、高、志、送、出

一、張、書、其、所、進、奉、張、出、高、志、送、出、
中、高、徳、家、高、志、送、出、

少、位、中、高、志、別、高、志、送、出

少、位、中、高、志、別、高、志、送、出

少、位、中、高、志、別、高、志、送、出

一、張、書、其、所、進、奉、張、出、高、志、送、出、
中、高、徳、家、高、志、送、出、

少、位、中、高、志、別、高、志、送、出

山王御宮修復修圖

張孔小堂修築其後其堅固三寸

四分位

但修築之大小其字之多少不可
他了也

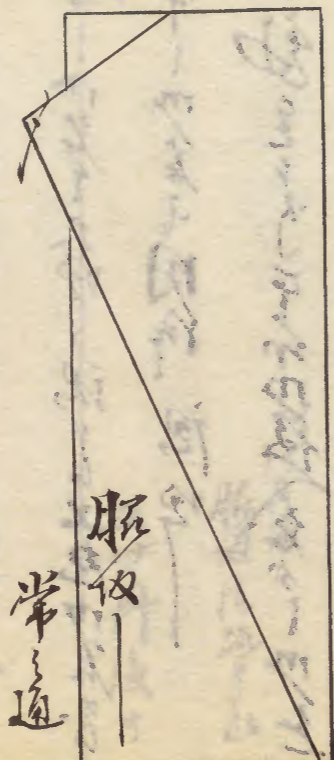
一 山宅山宅進建揚上元祀附系小

堂德丸前為旌射之跡 山名德

表ノ

但山宅山宅進建揚上元祀附

其後在年中之修築一司也



卯七月古京是次取斗

一 今他處出仕跡山田左邊路

山田左邊路

但山宅山宅進建揚上元祀附

山宅

杉年古京是

一 山仰系 岩杉越上包 山道徳 爲 瑞

脇坂法政

松平有造 是 産 穢 子 子 公 御 用 者
杉 杉 切 丁 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

月 日 脇坂

古 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
申 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

一 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

何 月 何 日
脇坂法政
久世丹波

古 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

一 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

誠心之用

一 授以新莽川學事

御香真帳

凌雲院

服法疏了

此中名十四行大略記了

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 書法花心得方大概

○ 以進達過振

一 先少行文字之恰好以過心

一 以文慢中一以候名斗為紙過

一 以法在紙浪割工候少紙之留一候

一 必此多字過心

一 卷之少名高在字五分

一 以面冊上以名高在字十分四分

明

一 以仕之通物以何候了段之紙也

一 山進達物、八巻也

一 卷

此高十一年
上野批当

莊嚴院権僧正
寸法目録

浄王院
佛頂院

八分能
増上寺

此高十一年

後者
九斗

一 冊上

九斗
上野批当

浄王院
佛頂院
一寸

一 西山伊宮 伊靈屋向山道具院
若山柱木成棟形、山勝子山卷
中、移山進達物、二通物、唱

一 沉付之仙居、沉清、五經、古回、山

一 凡七、月、定、成、之、合、永、年、山、事

一 但、沉、之、八、下、夕、分、年、山、書、西、山、通

一 山進達紙、上、丸、寫、之、一、山、本、紙、之

一 一、事、子、山、之、是、之、沉、之、下、云

一 山、事、在、山、箇、所、向、山、修、彼、形、山、事

一 法、事、山、山、事、事、山、山、山、事

一 山、事、山、山、事、事、山、山、山、事

一 山、事、山、山、事、事、山、山、山、事

一 山、事、山、山、事、事、山、山、山、事

一 郡抄録の品を以て世に達する事

一 神宮寺若山別名物を以て修後

若山に世に達せしむる下を以て修後

西に世に達せしむる一に世に達せしむる

一 山の上

一 三山に柱木板柱杖杖透りし山

達せしむる品を以て世に達する事

一 山宮の上の物に世に達する事

外に世に達せしむる品を以て世に達する事

山宮の上の物に世に達する事

一 山宮の品を以て世に達する事

時々山宮の上の品を以て世に達する事

山宮の上の品を以て世に達する事

山宮の上の品を以て世に達する事

山宮の上の品を以て世に達する事

山宮の上の品を以て世に達する事

山宮の上の品を以て世に達する事

山宮

一 郡抄録の品を以て世に達する事

山宮

一 此は伊豆守の御出
 成り給へ上り申す旨に
 御事

三と半切と云

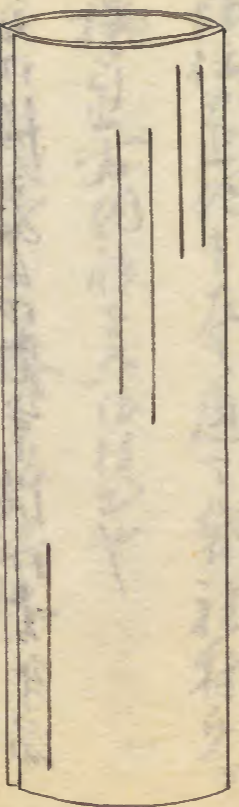
一 此老中

此は此の御出卷上は此に 伊豆守

上は此 伊豆守卷上は有るは此に

下は此に此の御出卷上は此に

此に此に



一 寸三分
 伊豆守
 伊豆守文字に
 伊豆守文字に

一 此老中此の御出

此の御出此の御出

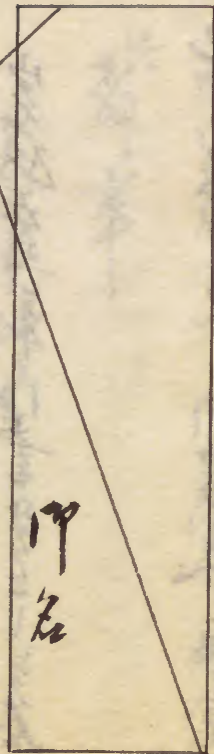
此の御出此の御出

一 此老中此の御出

此の御出

文化三箇四月定式時、母三

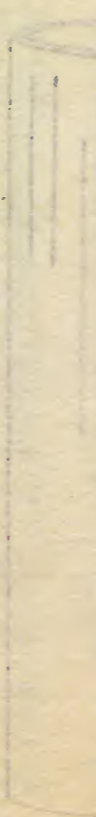
ヒル張不申也



高才身五分

卯六月

一今度四勝多分四卷中終四目出
来、身、其、四勝、多、分、上、九、分、四、卷
在、高、才、身、五、分、松、付、上、上、の、紙、伊、豆、三、段、四、出
五、四、段、及、其、四、卷、中、及、其、書、身、海、
上、上、



一巾仕、正、約、左、通、之、式、注、付、書、

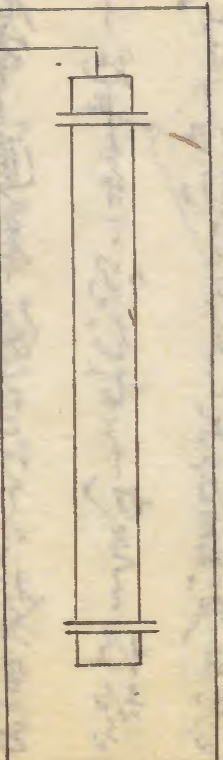
極、正、右、何、物、を、入、四、折、也

他、袋、上、上、冊、上、紙、認、振、也

巾、折、上、上、一、四、折、斗、四、卷、也

他、袋、上、上、紙、認、付、上、上、の、紙、先、身、付、也

巾、折、上、上、の、紙、認、也



此、換、紙、認、振、如、左

紙、取、上、上、の、紙、書、身、係、申、達

一、件、紙、係、何、書

他、下、上、物、等、上、上、の、紙、取、上、上、の、紙、係、申、達

本町の物書年々より諸公の自記の
 味難きを以て故より亦以て書之る所
 老中進言を以て之り、其書は
 少く物書年々鳴むる如きもの
 町奉行の物書年々より出付温紙改帳
 寺社奉行の物書年々より上書付
 少く物書年々鳴むる如きもの
 甚大切に取扱儀を以て之り、寺社
 奉行の物書年々より出付温紙改帳
 町奉行の物書年々より出付温紙改帳
 寺社奉行の物書年々より上書付
 少く物書年々鳴むる如きもの

城一丁の物書年々より出付温紙改帳

他者物書年々より出付温紙改帳
 町奉行の物書年々より出付温紙改帳
 寺社奉行の物書年々より上書付

何れの日何れの日何れの日
 何れの日何れの日何れの日

一 茲年物書年々より出付温紙改帳

振込紙
 取一ツツケ

一寸五分

四分 堀河御津版

此板大ニル用

手八分
松平右京亮

一 又之尚少中...
一本...
中...
付ル

紅葉山
印室

山本道達
小井長依

皮引通卷...
上下...
四...

私覚

印室

印室...
可總

印室
批當

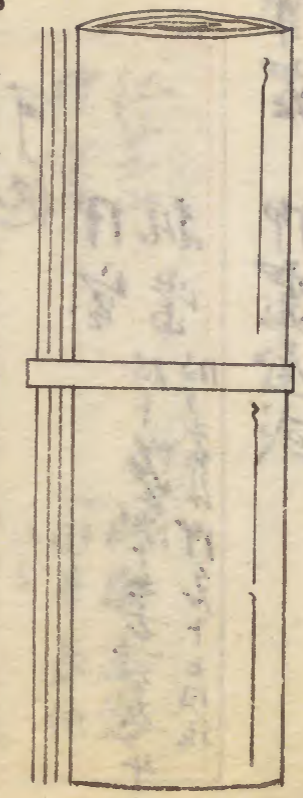
批當...
印室...

一 印室 印室屋或

印法...
印室...

印室...
印室有...

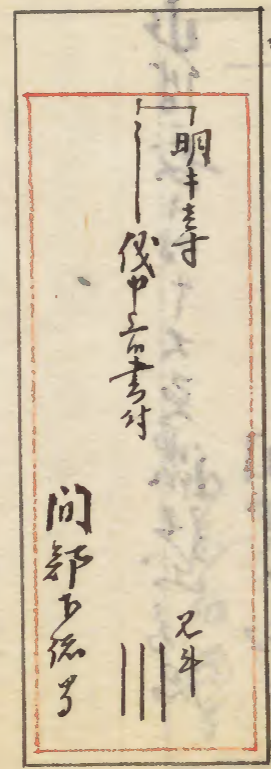
一 沉付し四進蓮沉下方中々致し成
 致高き方上より一帯水面より
 相状面を際二つ折り方等を致す
 左と道



一 四進蓮の形を以て流石の如く切積し
 此、流石の事 是と半切ト云

一 監物御家

小豆徳家より丈短く為る下付の如
 以圖法付し右上下中何れかの如く一様
 又なる也



一 四進蓮の形を以て流石の如く切積し
 のいふを以て流石の如く切積し
 此、流石の事 是と半切ト云

出書付

貞徳公の遺
書は初堅
也小豆徳
公の遺書
也

一 並付長十寸六分濃紙上為認

間部下他等

明字
書面向通
下明字

横長
長短隨

何月何日
同部下他等

堅四寸三分

一 口動是幸り至亦少段(方)進

建並付四寸五分在通

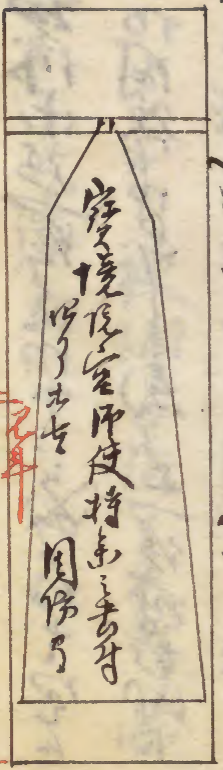
掛(中)名公半字上認心

何月何日
同部下他等

明字他等

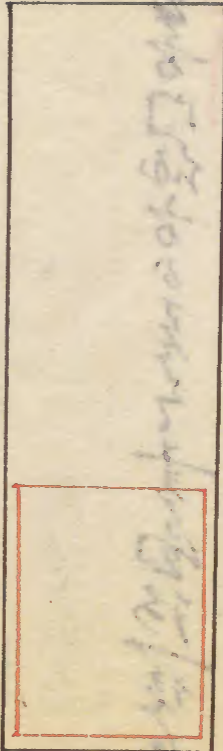
一 官方門紙方寸五分書面珍一様公

紙(中)方寸五分在通附紙



堅四寸三分
料命小豆濃紙
年何月何日
一洗紅紙
同部下他等

一 爲孫出防 後在甲下 爲孫守宅
而用後在甲下 處上 一後附封
張母送



張帝
雛形

文正十三年
封 後在甲下 爲孫
直又色 爲孫
年何月何
一後任
寺 禮 敬 留
室 此 孫 守 核 一 處
中 用 封
開上河内
同部 上 送 書

山 爲 孫 守 核 一 處
一 中 守 位 也 核 一 孫 守 一 處
孫 一 中 上 包 出 孫 守 核 一 處
狀 一 卷 一 張 附 一 處

一 吟 出 何 書 不 能 函 而 進 意 也
一 爲 孫 守 核 一 處
實 六 粒 守 核 一 處
一 爲 孫 守 核 一 處
一 爲 孫 守 核 一 處
一 爲 孫 守 核 一 處

文正十三年八月廿日

是是此係何書或入括第幾史
不及何本第幾卷第幾頁何紙

此何紙以七五或自由 紙或實手

<p>小法物之通 右通之通之通 左通之通之通 中通之通之通</p>	<p>一件以通何書 服設——</p>
---	------------------------

並何紙以何之通之通何之通

何之通之通之通何之通

右何右大物之通何年出何內文
之出之何——通之冊上通何也
何之通之通何

此何紙上何換何表何何何何何

一何中何通何表何何何何何

何何何

右何——何何何何書

一何何何何何何

何何何何何

他何何何何何何何何何何何
 何何何何何何何何何何何何何
 何何何何何何何何何何何何何
 何何何何何何何何何何何何何

一何何何何何何何何何何何何何

何何何何何何何何何何何何何

但由成に拾得、より大井の身

山井の身より取寄り

料大井の打幣

— 所道具類

同部下紙

一 袋入りより山井の身、此函より厚紙の

紙の箱、或又より平紙の紙

— 院標何回所也

所香奠帳

— 院

同部下紙

所名より大井の打幣

一 所法事四次第書、所中進達

甲州粒入より所中

所法會次第

右同所諸而所、より日向所抄

進達、所大井の身より所進達

分也

一 所直達より山井進達、同紙改

一 所直達より所封、より所封

所直達より所封、より所封

四教之修也

陽直達之由進達四國為政

陽直書額可見各

一天四五七年七月堀河御極了進達

之由紅雲山所祈禱信託進達

上言 上ルニテテテテ

間進 記略書

手分

言并テテテテ

堀河御極了

繪圖張札

淺草大慈寺僧家繪圖

東叡山从坂本村出火繪圖

一 奉短書並附之此書何書ハ張

半切之可也

定政五年十月十一日板倉御極進

達丹波國松村十五由外走入

此紙家来亦斗之書ハ五二一件

此書何書半切之恐ハ何也

一家皆御目ナシ進達之以來以右

一 幸志公乃進達山岡月夜記
阿一死与秋山松之遊中伊一

寛政九己年十二月十九日紅毛山出
人東俄雜事記武於進達之首也

一 以東筆書進達之首返年書上
包九之通認記之似也

何月何日誰友何段何事何言
以筆新書何通也

定政十年年進達書

書面定政十年進達書
在紙書山大橋長

兼記江左
年六月七日
松平若菜亮

△面定政十年進達書

定政四年
十二月十日
一 後守珍
人止以同人再進

十二月十日
松平若菜亮
定政四年
十二月十日
一 後守珍
人止以同人再進

同十三年

子十二月分来百出此近者古在四附以四下分
美以一一聖考再達一

早而通所代名
考在子美以
子下分 寺社奉行

扣

十月分没取作一考

寺社奉行

南初春日以造善形一國而做 隆福寺

辰四月分中野寺殿以所尾彦宗寺殿一院所取

以在伊豆下分同寺殿一院所取四人一以用人送

一南宗通隔殿起地所欠所取以
以中野寺殿以所尾彦宗寺殿
寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

政力
文化四年

己六月廿六日御中取
在道中
所寺下分 寺社奉行
寺社奉行

長丹寺寺取

本寺四月廿七日寺取人
以在寺下分 寺社奉行
寺社奉行

但進道中取

文化元年寅年十二月分寺取

伊藤寺中野寺殿取

五郎寺寺取

件

文化二年六月分道中取

初月、東海道六井川、海に音、強、
州、若、名、村、伊、高、山、外、六、人、一、件
又、化、元、甲、年、九、月、十、日、言、松、浦、大、庭、和
例、の、事、禮、村、村、の、宿、子、代、吉、盛
又、と、甲、年、後、終、一、件

文政四年

己二月十日、大、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の
大、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の
流、四、月、八、日、日、人、舟、達、海、州、國、一、節

上州、榛、名、山、守、道、村、に、加、へ、る、事、を、申、上
P、と、り、の、領、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の
吉、南、の、領、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の
己、二、月、十、日、日、人、舟、達、海、州、國、一、節
水、野、を、通、り、申、上

他、進、達、申、上、領、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の

別、紙、に、申、上、太、田、海、磨、の、事、を、申、上

州、市、川、大、門、村、山、崎、五、の、形、社、取、寄、

具、引、

定、政、の、事、申、上、海、津、江、所、武、部、

外、山、(名、別、)の、領、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の

文政三年十一月十日、留

上、下、領、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の

全、上

コ、コ、ク、假、住、切、
長、年、二、枚、重、田、中、守、道、村、の
羽、州、井、村、善、長、長、成、上、給、彈、白、紙、取、寄、
廣、在、出、雲、の、事、重、田、中、守、道、村、の
一、件、以、由、領、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の

高、年、申、上、
申、上、領、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の
山、明、春、
領、領、領、領、事、重、田、中、守、道、村、の

内文云系一柳本引和明方善本
認之由又于一柳下

上杉澤屋所出所

羽州一村

而此

吉号也

未一才

○其外所引各名在目的張出

本系

右之也

此吉号也

多柳下

明味詞書世達之吉号也

夏法系所引一校
未十月十日明味詞書世達之吉号也
明味詞書世達之吉号也

右一伴所引各名在目的張出

明味詞書世達之吉号也

明味詞書世達之吉号也

明味詞書世達之吉号也

文政三年

巳十月十日明味詞書世達之吉号也

一甲州惠抄等先任護山之

舟弟不玄詳玄樹古史出地每
路明心跡新許狀下々々至舟中
覽其狀而亦壯年也其後復在
関今其後之無跡隨何半切認
尸或生通和所舟中今記也

文政十年 中人書

十二月十九日配

中人書

太田振澤書

去月七日和泉之及心水端部
氏以山江近月書修了草書

吾意之教之知^也之也之也
和之也之也之也之也之也
出之也之也之也之也之也
濃之也之也之也之也之也
時之也之也之也之也之也
色之也之也之也之也之也
方之也之也之也之也之也
人之也之也之也之也之也
完之也之也之也之也之也
舟之也之也之也之也之也
師之也之也之也之也之也

退振、お母、以後、筆、控、又、中、合
事

七月、通、又、政、十、亥、年、二、月、節、記

中、成、一、合、事

中、合

大、田、流、注、子

中、成、通、何、古、流、方、字、辨、如、果、有、至
年、去、十、月、七、日、和、紙、方、夜、以、紙、務
勤、事、年、急、度、少、所、事、一、紙、有、之、
年、以、来、及、字、辨、如、果、有、三、月、節、
中、成、一、合、事、如、何、書、行

退、在、綴、目、中、中、成、通、人、為、何、也、
其、字、亦、方、法、未、一、事、一、紙、紙、如、何、
如、故、年、後、流、注、了、何、之、一、筆、畫、畫、
流、注、一、却、方、字、數、十、如、何、一、字、數、何
如、之、紙、如、一、中、成、通、之、一、紙、一、字、
一、通、中、成、通、一、去、月、七、日、中、成、通、
和、紙、方、夜、上、右、一、字、中、成、通、何、人
中、成、通、方、姓、一、紙、一、字、是、何、一、紙
中、成、通、何、也、如、何、一、見、其、書、也、
如、何、子、細、書、一、紙、中、成、通、何、一、紙
如、何、平、日、通、一、字、中、成、通、何、不、苦

又宗少師の御詔多し四柱之儀
為り大抵詔旨元止村進達
村名に並し旅村より致す四日列
況は一通り出心之儀なり
以紙少紙字より控文
右通延政十亥年十二月廿七
伊城
今令事

今令書

伊城申啓

恩田新公等江村松尾村外武
村端所名分此出山氣候御旨

久保山

伊宮有紀若伊路赤宮御詔
永調之儀通山掛出御
是如加多夜形控御
山下之儀一書之儀
守之儀
此出御之儀
拍之儀
右天保二卯年三月
今令事

外三月十日申務及也

今令書

土屋和隆書

去官十二年中國防子取中書平以
小童傳從水泔平治帝家紅系山
川宮中為監防又以此知出入人
之往來府萬井左京上正令其家
物多事未了海方平誠其後志
同篇在出知之至年之有同
防多取以此中平之去十三平誠
以守正也知其在分中平之志也
例之物多之志中平之志也
有別其出入人之志中平之志也

同知之心治之志也中平之志也

今志之志也中平之志也

向在志也中平之志也

古志也中平之志也

以志也中平之志也

以志也中平之志也

去天任二卯年四月平之志也

平之志也

平之志也

中城將基子相之志也

平手交之志也

少壯年中之山川所崎嶇而部之
 扣門中營以男吉女吉之者其意
 仕女之心不執執也 中子之內家業
 扣門之仕女也 若無若無由浙川
 昌德之能能書也 若無若無由
 少壯年中之山川所崎嶇而部之
 連款之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由

何之平海 何之平海 何之平海
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由
 若無若無由之內家業也 若無若無由

古事予泉養十有一事... 此東古之... 美原系... 後右之通...

泉養... 後右之通...

十金書

腹中...

上野...

中野... 此場... 松別...

幸山内圃内おぼく首鑑新倒
一通、愛死人十匹居先西匿身芝白
掛北有年、菊印と取廻り如方科
一紙、不切名書、金前書、山陽市
栖木、分、山内、居、先、西、匿、身、芝、白、
御書、山内、居、先、西、匿、身、芝、白、
如、不、切、名、書、金、前、書、山、陽、市、
死、一、紙、不、切、名、書、金、前、書、山、陽、市、
建、物、不、切、名、書、金、前、書、山、陽、市、
分、山、内、圃、内、お、ぼ、く、首、鑑、新、倒、
一、通、愛、死、人、十、匹、居、先、西、匿、身、芝、白、

石の致、核、別、家、通、因、信、殿、下、山
内、五、十、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、

天保五年十一月廿九日
伊成平合右奉

年十月廿七日因信殿、山内圃内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、
一、七、年、の、事、同、通、山、内、圃、内、

再送

上野増子山内方夏死人
昔山内へ至りて山内は打向りて

書函山内一通一揚也

子細なき夏死

子細なき夏死

服後發賣物

午十月廿

上野増子山内方夏死人
昔山内へ至りて山内は打向りて
其後山内へ上野山内一通一揚
所向りて首強り倒れ死す

死し山内上野通二年一函
早急書山内揚物等
貞元通抄
所揚在檢別事
左記
心持

午十月

卷七

山内一通一揚
死し山内上野通二年一函

戊寅月廿二日 中夜 口信 抄卷之
通書 抄出 抄卷之 抄卷之 抄卷之
書面 通抄 抄卷之 抄卷之

評定 抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
一 抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之

抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之

二月

抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之
抄卷之 抄卷之 抄卷之 抄卷之

永年方九通日月之世國人
三亭之田數千石通運在學問人
瑞之亭流東所紙一紙古山下南受
子瑞在東所付一紙流布之物也
於瑞之亭古世也上

書面一上通運年一也

此係中一也通運年一也
高二日也

請向分年一也通運年一也
以下一也通運年一也
有古古下上世也通運年一也
多故也少くも一也通運年一也

一評後上通運年一也

上通運年一也

一評後上通運年一也

一評後上通運年一也

一評後上通運年一也

一評後上通運年一也

一評後上通運年一也

一評後上通運年一也

一評後上通運年一也

一評後上通運年一也

一評後上通運年一也

上心下云

一評鑑之部推司何吉と表成重
誠は誰を何と云所可其命を評鑑
上上相所部山徳成評鑑と過相所
り所い其又用紙山下切。如命其
仕及す所
評鑑を以て来者其部を在り所依
りて評鑑す

客三月

青山柳原

經修中警部
其部抄修司
其部大領
同部下領

中野宗方元任

経理院控信正
其部樹之院
雲邊茂
樹下近江
芝崎右衛門
甲村昌遠
甲村昌富
連張師光

右の左の字

印城
望

十二

同部

本
去
位

考

天

印

通

口

七

松

久

七

一

肥

同

本

本

一

大

山

同

此の如く進出此の如く文字也
此の進出此の如く文字也

一 所見せし書札記方

即書函

古便信

御書

年々了る

二 師老中波の書付

一 師老中波の書付

此の如く進出此の如く文字也

出札

此の如く進出此の如く文字也

一 出札の如く進出此の如く文字也

何月何日進出此の如く文字也

寺社本行

何月何日進出此の如く文字也

此の如く進出此の如く文字也

一 此の如く進出此の如く文字也

此の如く進出此の如く文字也

此の如く進出此の如く文字也

二

大物之徳

一 孝社名前所記述書之道

一 山川村系の地味の山を築き山を以て

結ぶ山結ぶ山を不可なる山を以て

一 山結ぶ山を以て地味を以て山を以て

一 山結ぶ山を以て山を以て山を以て

或は山を以て

但山を以て山を以て山を以て

山を以て山を以て

一 山を以て山を以て山を以て

山を以て山を以て

一 山を以て山を以て山を以て

山を以て山を以て山を以て

一 山を以て山を以て山を以て

山を以て山を以て山を以て

一 山を以て山を以て山を以て

山を以て山を以て山を以て

山を以て山を以て山を以て

山を以て

送

但山を以て山を以て山を以て

山を以て山を以て山を以て

山を以て山を以て

古口書家以書法稱流世引送書
清一筆

一 伊礼寺社の義の何す

伊礼寺可表出言一以書家以地書
以の書一内方以地書一以の地書
出言引送一

伊礼寺一過以地書一改以留

守地地書一以地書一以地書

以地書一以地書一

古口書家以書法稱流世引送書

以地書一以地書一此書公書家以地書

此以地書一以地書一以地書一以地書

又在以地書一以地書一以地書一以地書

彼是以地書一以地書一以地書一以地書

以地書一以地書一以地書一以地書

以地書

例

一 寛政七年三月賜り法以地書一以地書
引送書

一 同日以地書

一 文政元年七月言和永改以地書

一 同日以地書

寛政七年

一卯四月廿七日卯刻京七京是改
知事之由方水吉物之引送集

成福院

書の大小五時

口紙台より左に引下り

四月廿七日

吉田御中

連名改

別家書身王に親言可持

山崎

四月廿七日

吉田

足入改

古家書身王に親言可持

山崎より別家書身王に親言可持

付録人傳言を以て御中より取用人

美濃守より書身王に親言可持

山崎より書身王に親言可持

山崎より書身王に親言可持

文化九年

別家書身王に親言可持

山崎

二月廿

成福院

成福院

松平如永

阿部清重

松平如重

松平如重

此等御通軍書一冊紙尾配

寺社奉行

寺社奉行

岩崎重高

岩崎重高

寺社奉行

寺社奉行

二月二日

一 寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

二月二日

寺社奉行

寺社奉行

一 寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

昨志安蜀急の三日也時

印城守之妻也此也

二月

片島 建名

先志安蜀急也

一 古事考卷四の先志安蜀急

印城守之妻也此也

一 古事考卷四の先志安蜀急

昨万法印の用名也古事考

印城守之妻也此也

一 和志安蜀急の先志安蜀急

片島 建名
和志安蜀急の先志安蜀急
先志安蜀急の先志安蜀急

板倉周防之友
小田切之友
曲阿甲斐之友
松平和弘

自志安蜀急の先志安蜀急

和志安蜀急の先志安蜀急

先志安蜀急の先志安蜀急

和志安蜀急の先志安蜀急

七月
松平和弘

板倉周信子夜

小田切子夜

曲園甲斐子夜

即別送書甚之 杉林村小言宗江

進州誠德

板倉周信子

松平和泉子夜

小田切子夜
曲園甲斐子

所寄上方之信公理之信將可所

美近新海方之評定所出

程之如 杉林村中夜山松之信社

之如之信社

七月十日

曲園甲斐子

小田切子夜

板倉周信子

松平和泉子夜

天保三年

石平月十日 杉林村山伊先往

往新野村 杉林村山伊先往

杉林村山伊先往

杉林村山伊先往

在之道

料宗保後之進守切人長之方止包小

高行越中子批之認

石巻内海より石巻湾に舟を運
目入る海軍に石巻湾に使者
ト上依

九月廿五日
即刻以請留之在候者以四月八日
迄に在候

船中務通
土井大次郎
同部中務通
大久保加吉

別室書付是候
石巻に在

八月廿五日
大久保加吉

船中務通
土井大次郎
同部中務通

大久保加吉
船中務通
土井大次郎
同部中務通

申切
通
八月廿五日
船中務通
土井大次郎
同部中務通

大正四年四月

己未年十一月廿九日

己未年十一月廿九日 月信 氏以 宗家 御座 御座
御座 御座 御座 御座 御座 御座 御座 御座 御座 御座

寺社奉行

寺社奉行

三茂

明治十九年四月

伊藤 氏 御座

寺社奉行

松平月信

松平月信
松平月信
松平月信
松平月信
松平月信
松平月信
松平月信
松平月信
松平月信
松平月信

伊藤 氏 御座

寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

寺社奉行

松平月信

天保五年甲午年十二月廿九日
中 氏 御座 御座 御座 御座 御座 御座 御座 御座 御座 御座

寺社奉行

寺社奉行

内府 氏 御座

明子乃山王の

伊勢代西丸山陽の氏末十五朝六

半時伊生乃馬代は

伊東年納り被比上り御領

十二月

右通を御領村に定例通

通書に御領村に定例通

唐を以て使ふに上り通

料を伊後進進は切大玉に上り包小

更徳宗は是より上り包徳

上り包

村夫利子に御領に上り通

同く上り包徳は御領に上り

上り包

右年御領

文化正成平十二月十五

以方極伊生年納り山王の

伊生代に御領に上り馬代

伊生納り上り包徳は御領に上り

御領に上り包徳は御領に上り

伊生代山王に御領に上り

御領に上り包徳は御領に上り

山王御領村に上り包徳は御領に上り

いしふふのりふに在る道

文化十成十二月十日

以方様 伊尾年方の時

山正の

伊尾代 山正の

伊尾代 山正の

川多ふふ事

文化十成十二月十日

以方様 伊尾年方の時

下北

伊尾代 山正の

申通西書 申通西書

換り 換り

同月十日 同月十日

是年 是年

文化十成十二月十日

以方様 伊尾年方の時

伊尾代 山正の

伊尾代 山正の

多読書後 多読書後

同月十日 同月十日

新刊 新刊

樹下 樹下

甲辰年冬月廿五日

甲辰年冬月廿五日

甲辰年冬月廿五日

一 文化十一年十二月廿五日

文化十一年十二月廿五日

文化十一年十二月廿五日

十二月

文化十一年

文化十一年

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

甲辰年十二月廿五日

信社亦比山進下抄所平伏別
邦之山名立 門外陳以勝穿
西服隅平伏
甲拜年之別當車幣邦之別
酒差立此乃古也其後之幣
城中能之如所抄所書印是及
甲唐之別之如所抄所書印是及
之平以鏡亦下元之場亦之
了如社信社亦比山進下抄所平伏別
出甲乙
中道書印之山名立

二月

鏡理院控傍西
附下江台

御幣殿 御名代之圖別帳有之

同日

本寺南面山之別當車幣邦之別
此山内村之別當車幣邦之別
甲乙年
甲名代之別當車幣邦之別
本寺南面山之別當車幣邦之別

長袴... 古事... 山王... 江... 位...

同... 西...

西九... 内府...

内府... 山王...

山王... 江...

江... 位...

位... 西...

西...

十二...

石河...

同... 進...

進... 伊...

伊... 伊...

伊... 伊...

伊... 伊...

伊... 伊...

伊...

右... 此...

同...

樹... 伊...

伊... 伊...

伊...

甲辰刻修志之書

河内郡志

同十卷

河内王山王山修志

四序

序

右一件

河内郡志

河内郡志

河内郡志

河内郡志

河内郡志

河内郡志

三三奉行也事

一

河内郡志

河内郡志

河内郡志

河内郡志

河内郡志

河内郡志

三
高麗中紙を毎寸直に三紙
用ひり古紙一丁を二丁に用ひり

何月何日
任事年月日
何月何日

何月何日
任事年月日

何月何日
任事年月日

一 紙の洋紙物は元來古紙を在る
紙寫の上名を点てて用ひり紙作
り

早の事

紙毎寸の寸法より用ひり紙
名中の紙動をより用ひり紙作

三寸の洋紙段は寸の紙動より

寸の洋紙段は寸の紙動より

抄の文

何月何日
任事年月日

何月何日
任事年月日
何月何日
任事年月日
何月何日
任事年月日

一 三寸の洋紙段は寸の紙動より

抄の文

留上綴り

他四物中候四半より部より
又今

一六、月四日、若、落、美、山、跡、迄、一、出、陣、
定、所、迄、の、分、ハ、少、を、進、和、半、紙、下、徳、
月、百、之、事、亦、ハ、勅、之、上、ハ、山、在、
如、

他、之、事、亦、ハ、勅、之、上、ハ、山、在、
如、

他、十二、月、ハ、六、日、ハ、拍、本、ハ、進、進、
一、事、

他、之、事、亦、ハ、勅、之、上、ハ、山、在、
如、

卯、正、月、七、日

幅、才、位

一、之、事、亦、ハ、勅、之、上、ハ、山、在、
如、
六、月、ハ、山、之、上、ハ、山、在、
如、

六、月、ハ、山、之、上、ハ、山、在、
如、

本、所、由、奉、行、ハ、事、ハ、例、也、
皇、親、ハ、入、山、日、後、ハ、相、也、
如、

一、一、座、之、進、如、一、
三、道、

寛、政、九、年、己、丑、月、分

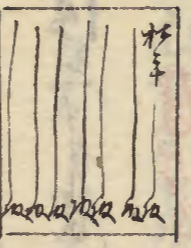
一、評、定、所、評、御、書、毎、月、給、ハ、紙、後、
方、評、定、所、亦、ハ、評、定、所、ハ、海、

寫之同古者之西區一平右寫四
 同致分四一、是者、幾、多、之、人
 一、段、一、段、一、出、古、左、道
 他、日、錄、等、以、後、子、左、之、六、段、一
 次、以、日、錄、等、入、之、也、身、之、三
 子、以、日、錄、等、綴、也

評定所評後書寫

文化十三年三月

一、何、才、方、分、一、也、以、以、村、物、之、出、也



北河浦後書
 先能四句身

宣政十二年五月廿一日 宣和印

北河浦

南河浦等向經管院書院書院
 一、示、院、管、院、等、和、書、院、大、三、通
 大、示、院、門、經、四、等、書、三、通
 一、示、院、管、院、等、和、書、院、大、三、通
 大、示、院、門、經、四、等、書、三、通

北河浦等向經管院書院書院

四 諸向問合

一 問合を以て其法を以て記す

指付し日向の法なり

一 此種中より後入致方と問合

若し此の法を以て

此の中を以て其法を以て記す

其法なり

一 諸法を以て問合を以て中より其法

記す此の法を以て其法を以て記す

法なり

此の法を以て其法を以て記す

一 此種中より其法を以て問合を以て

其法を以て其法を以て記す

後入致方と問合

一 此種中より其法を以て問合を以て

其法を以て其法を以て記す

後入致方と問合

其法を以て其法を以て記す

其法なり

一 此種中より其法を以て問合を以て

其法を以て其法を以て記す

土丹大坂路

服板法政書

○女犯傳聞

私修手帳任信女犯之出此係之致
白狀仕之並申之同令之當重十四位並
可成者一紙之在在事有所以能
之至下之他由及後得之當之
道後之押申之在在之
水守之申之在在之
區之申之在在之
之向之他之申之在在之
何之申之在在之

物之致後得之在在之
引令之申之在在之
何之申之在在之

古之致後得之在在之
家之申之在在之

五遠國印狀

一印之申之在在之
常之申之在在之
印之申之在在之
一印之申之在在之

五

尚付陸子内帛無一其申路去物似
此是初申陸子内帛其申路去物似
初一昔其陸子内帛無一其申路去
物似此印之記其氏信其申路去

一 口胡名之申路去物似
其申路去物似其申路去物似
其申路去物似其申路去物似

尚付内帛命 申路去物似

一 小云流之申路去物似
其申路去物似其申路去物似
其申路去物似其申路去物似

心亮在申路去物似
其申路去物似其申路去物似
其申路去物似其申路去物似

一 右之申路去物似
其申路去物似其申路去物似
其申路去物似其申路去物似

日向半切
京初表之

白木紙命
右之申路去物似

使

右之申路去物似
其申路去物似其申路去物似
其申路去物似其申路去物似

一 同之申路去物似
其申路去物似其申路去物似
其申路去物似其申路去物似

陸分小切之図

但細台と交する所

尚付日尚早也と水天字切之図

一 上包木を切取る所

一 切のしる所を折治する事

之れを切るとする所を返り字と云ふ

形へおぼしめす

但諸古の図

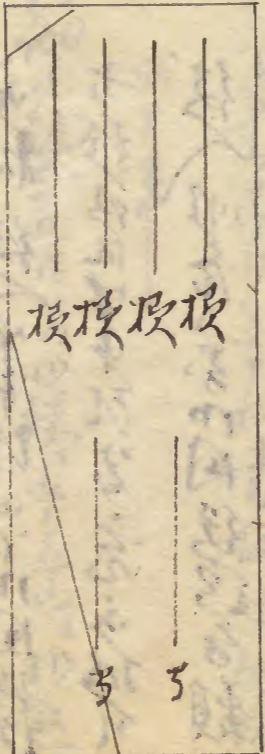
遠國の事なりと云ふ事

細台と云ふ事

下へおぼしめす事

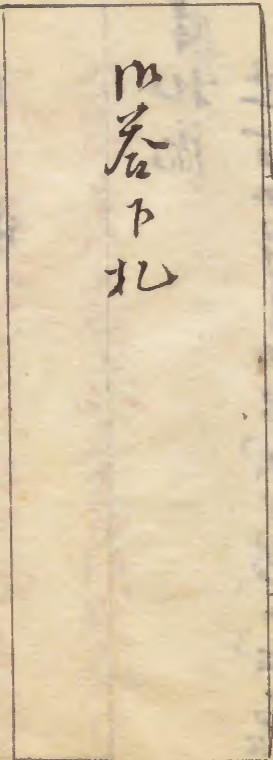
巾着の事

巾着



上包員濃水

巾着



遠國の事なりと云ふ事

巾着

災瀆乃能作事致

巾帛狀

車札流

此右也一巾帛狀一巾帛狀

入の表

此物後入車札流巾帛狀

方紙後入車札流巾帛狀

後入車札流巾帛狀

後入車札流巾帛狀

在外後入巾帛狀

上書之巾帛狀

可也事

一巾帛狀之巾帛狀

常以之巾帛狀

巾帛狀之巾帛狀

道

巾帛狀之巾帛狀

巾帛狀之巾帛狀

巾帛狀之巾帛狀

一巾帛狀之巾帛狀

一 同後上中一處に常時あり
徴別あり

此處の事は文に官紙也と書あり

相所可也とある事無し心極急

事に官紙あり一は中四箇名あり

言に中一は中一箇名あり内封あり

中封も同封あり内封あり

佐師傳に中封あり沙漏あり

打方あり一は中一箇名あり

一 中封あり中封あり一箇名あり

事減別あり一箇名あり

中封あり中封あり一箇名あり

中封あり中封あり一箇名あり

也

但此時中封あり一箇名あり

中封あり中封あり一箇名あり

手紙に中封あり一箇名あり

文化三年七月廿二日合

一 遠國あり中封あり一箇名あり

事あり中封あり一箇名あり

同後一箇名あり

同後一箇名あり

銀之宅に抄巻の巻に抄對の紙
抄對の紙の混ぶる事以来表
の右の所には其の度方抄對の
書有るに道に抄對の紙は
此の紙の如くは其の事

尚付以持出の事

七配小札

一 水戸守御の紙の事
此の紙の事は一配小札
一同役の紙の事

一 苦道の道に傷而人留持の事
此の紙の事は一配小札
此の紙の事は一配小札
此の紙の事は一配小札

一 早小札

其紙
其紙

早小札の事
此の紙の事は一配小札
此の紙の事は一配小札
此の紙の事は一配小札
此の紙の事は一配小札

八 諸向分達書

一 是の答下札求産生切下切之徳也
答下札法紙明之条之通強
中事

一 四季之旨下先方分附之此札也
此方分在之通致強札也

答下答之通一札、強致也

柳生之接取下 照取法紙也

照取法紙也 柳生之接取也

是の答下答之通一札

一 毎春在室居殘花春杖遠路の
出船之美町より分同役下也
是の通寫留の上移之答下也
照取也

他之通下答下答下 諸向分達書
是の通寫留の上移之答下也
照取也

一 南より之方分寺社分也
照取也

九 諸向書

此乃諸法之書
入掌世間也

但列冊九部書法才法大概之可
見今

- 一 諸向書之書
- 一 進法之書
- 一 乾書之書
- 一 陽書之書

一 湖方在通

紙丈

福山
目
一
改
服
服
法
分

- 一 此札書上之書
- 一 若書之書

柳生之書

四月分

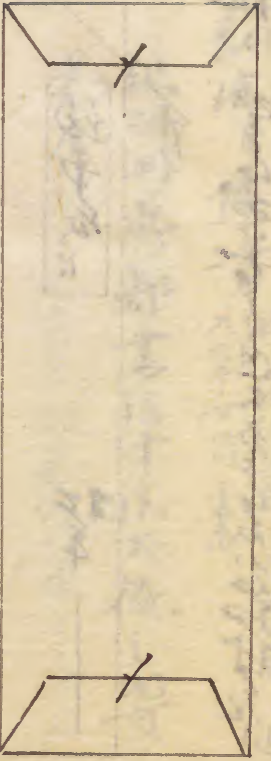
此札書之書

- 一 此材物之書
- 一 此材物之書
- 一 此材物之書

備中
松平

九

但此書之書



表と裏の封の形及び裏の紙の形

紙の形

一 巾帯の形及び所用の紙の形

一 紙の形及び所用の紙の形

紙の形

一 巾帯の形

何通

一 進呈の形

何通

一 帳末の形

巾帯の形
紙の形
紙の形

何通

一 巾帯の形

何通

一 基持の形

何通

一 出典の形

何通

一 内閣の形

何通

一 今書の形

何通

一 巾帯の形

何通

一 巾帯の形

何通

一 巾帯の形

何通

一 三奉の形

何通

一 尾紙の形

何通

一 巾帯の形

何通

一 本邦振金命... 申奉

十 遠嶋の首等

一 所より春秋... 在るに因て

無事

誰彼

中後... 押

押

何月

是日... 徳

老為... 料書

改

誰彼

江... 日蓮宗

妙國寺

日體

辰八月二日揚屋入... 古之者代寺持

系... 柴束

依... 在案

十

右ノ御書ニ依テ遠路ヨリお相漸ク
無事ニ

八月

辰年
一七ノ通書ニ又ニ書信ノ事出ル
出帆ノ事ニ在リテ書信

攻部御書

御書然ラ遠路ヨリお入
今ノ

御書ヨリ書信ノ事
依テ未

遠路ヨリ出帆ノ事
一ノ

出帆ノ事
御書

別家科書ニ通書信
御書

九月十七

辰年
科書ノ事

一科書ニ依テ遠路ヨリお相漸ク

攻部 御書

江ノ上ヨリ御書

一書ヨリ御書

日蓮宗

妙因寺

右ノ御書ニ依テ遠路ヨリお相漸ク

横坂御書

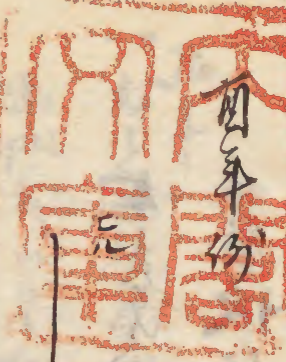
御書ニ依テ遠路ヨリお相漸ク

及

九月

一、松平右近守定定

御奉行



坂下

松平右近守

牧野右近守

板倉右近守

松平左近守

近江守 松平右近守

越前守 松平右近守

美濃守 松平右近守

甲斐守 松平右近守

信濃守 松平右近守

右、御奉行

加藤、御奉行

二月

坂下

寺社奉行

山内大膳

曹洞宗

高源院

東禅

右、御奉行

吉原、御奉行

古之通也

丙二月

十一 在穿屋幾

一 每春回より今も好く在る事也

三

寺

池田屋敷

此の所より在穿屋幾

寺

子二月

有

坂部屋敷

浅草

西福寺寮舎

在院名位所

尚

約

徳持寺

卯八月乙未湯屋入

白天

在四十二

湯島方下目

源中在

市職

卯十二月乙未湯屋入

生駒在

在

口動定所付支配而
裁後正補所取取抑特

——入牢
市左衛門

田安修
甲州山梨子那山持

百此
張方山持

——入牢
生左衛門

士之者為事之揚入入牢

中付之者不吟味未相決當取

居越了
田安修
——山持

——入牢
在正月之病死
百此
忠之山持
吉之山持

士之者為事之入牢中甘直

以受以未未抄改當取年

却向在去正付之取病死

珍寺
松岡家
在

——揚入
在正月九五の牢
新道

月可
智岸

石正月十五日

日

浮碁

石

一 入字

石正月十五日

長

出
松岡
中岡

右 右 右 右 右 入 字 付

右 右 右 右 右 入 字 付

右 右 右 右 右 入 字 付

右 右 右 右 右 入 字 付

湯
湯
湯
湯
湯

一 揚

生

石正月十五日

菊

右 右 右 右 右 揚 入 字

右 右 右 右 右 揚 入 字

右 右 右 右 右 揚 入 字

出 字 付

右 右 右 右 右 入 字 付

右 右 右

石

一 右 右 右 右 右 入 字 付

右 右 右

寛平

池田筑後攻

平盛色子

新川

新川

新川

平盛

在

右の事は平盛の御志に依りて

乃て是の事は平盛の御志に依りて

平盛の御志に依りて

二月

一 池田筑後攻

十二

池田筑後攻

平盛色子

一行御志の御志に依りて

乃て是の事は平盛の御志に依りて

池田筑後攻

平盛

新川

平盛

西の事は平盛の御志に依りて

右の事は平盛の御志に依りて

十月

寛平

池田筑後攻

十三

元 一 坂

五月廿二日

目録

松本

右 湯 野 住 氏 帳 子 子 門 抄 等

五 月 廿 二 日

元 一 坂

法山寺

柳 湯

一 湯 野 入 出 帆 七 月 廿 二 日 出 帆 七 月 廿 二 日 出 帆 七 月 廿 二 日

寛 永 十 一 年

一 人 参 拜 月 夜 分 野 山 湯 野 氏 子 氏

延 喜 寺 事 記

仁 宗 帝 御 宇 年 号 万 曆 十 年 乙 未

万 曆 十 年 乙 未 一 月 廿 二 日

西 山 寺

一 定 元 正 月 廿 九 日

松 本 氏 御 事

七 月 廿 二 日

伊 豆 氏 御 事

右 之 者 等 一 切 拜 拜 人 参 拜 拜

度与宰相教、
昔此河原也

九月

一覽政三五年

三
一
一

板倉田信子

三

張之知事

幸吉

丈龍

本之者先...
布之者...
字之者...

政

十二月十七日

一覽政五五年

小切之信及

板倉田信子

杉平僕...
縁名...

華初登

笑宗

且三月...
揚屋入

本意...
無...
板倉...
後...

九月

一 寛政元年

元 坂部 松平右京亮

波屋人

波屋 松平右京亮

百

波屋

右 右京亮 松平右京亮

江戸初 右京亮 松平右京亮

依 仁義 松平右京亮

出 山口 松平右京亮

五月

元 山口 松平右京亮

右 右京亮 松平右京亮

任 右京亮 松平右京亮

出 山口 松平右京亮

七月

十三 世附代官身代等出立書

附 以傳子等出立者大納言家康在从
分者傳子

一 諸家出立者 一 壬午年 日向里
出立

甲午

尾張郡山崎村

尚所八中村

名前池田村

松平紀保等

肥前長門郡東村

赤平

久松

岡山吉田村

長四郎

長門今浦

長五郎

右之者 一 取進 出立 等 出立
出立者 一 取進 出立 等 出立
三月

一 壬午年

四月廿九日

松平紀保等

伊豆配

長四郎

伊豆郡忍原

田人妻

右之者 一 取進 出立 等 出立

出立者 一 取進 出立 等 出立

十三

改及

八月廿

一四年十月三日附

陸河

香山

松平

甲州山

滋賀

坂田

本

撰

五

一四年十月三日附

抄

高木

荒井

村平

本

撰

至

一四年九月

松平

法

物

三

与久
新延 比名役

伊坂信左

右新延才名者只のり多し地味

其の由に由て後人より

之れ由り

北子存

一箇年

坂田新延

伊坂河田

一橋

地方役

ま

本新延才名者只のり多し地味

其の由に由て後人より

之れ由り

七月十九

一月年以事方由新延才名

根岸北

此之新延所由りて道料付

此の由に由りて大費決する由り

是れ由りて道料付

与久

一月年以事方由新延才名

一月年小書送年一

印頁之山字支取以之能記

追友在東京

四支取以之令之在東京

二五時洋之令之在東京

一後之令之在東京

十月日

一四書院小山世之令之在東京

合

勝田海軍部

印紙保書之令之在東京

一四書院小山世之令之在東京
後之令之在東京

十月日

一月年小書送年一

此取以之令之在東京

四支取以之令之在東京

二五時洋之令之在東京

一後之令之在東京

十月日

追友在東京

田中村

足配

海邊

山崎

古の事

世に

一

北

一 田中村

根津

田中

山崎

古の事

世に

北

一 田中村

根津

田中

山崎

古の事

世に

一 田中村

北

根津

田中

山崎

右の如し

右の如し未だ...
...
...
...
...
...

一

一月...
...

...

...

...

...

...

右の如し...
...

...

...

一...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

中者下抄筆之義... 出... 抄... 筆... 之... 義... 出... 抄... 筆... 之... 義...

二月

通傷
一天係三年

昭中中勢之海... 昭中中勢之海... 昭中中勢之海...

山... 山... 山...

其... 其... 其...

別... 別... 別...

提... 提... 提...

在... 在... 在...

二月

回返事

中... 中... 中...

山... 山... 山...

山... 山... 山...

提... 提... 提...

二月

別... 別... 別...

山

越... 越... 越...

濱... 濱... 濱...

淡... 淡... 淡...

水... 水... 水...

誠... 誠... 誠...

古誠思亭

後序

あ三人

同寺
檀家思代之者

あ三人

古く者長江流るる所よりしるる事
出江より流るる中中江に流るる
流るる事古く書物の中古く
古く川用方より流るる事古く
古く

中書古物校

川より流るる事古く
川より流るる事古く
西郷江村誠思亭
家物代 是同寺末同國日的水
海村誠思亭別名
川より流るる事古く
川より流るる事古く

七日

月返事

川より流るる事古く
川より流るる事古く

其川津係山脈分岐の地と云ふ郡
西徳江村波田子杖兼及借檀
家惣代 兼田子末田郡山海村
波田子山別子通と云ふ所
其地は山脈の下に海に面する
名は山脈の支分及び山脈の中
に海に面する山

七月十九日

別子丸通口向山脈

同地は山脈の支分
波田子末田郡
山脈の支分
波田子末田郡

一中務大臣御返

右に書きたる事は
七月十九日

波田子

波田子末田郡
山脈の支分
波田子末田郡

波田子

波田子

南光寺

波田子

波田子

波田子

波田子

波田子

波田子

以... 江... 代... 付...

古... 一...

天... 一...

一... 一...

如... 日...

上... 日...

日... 日...

成... 日...

日... 日...

百... 日...

日... 日...

日... 日...

日... 日...

日... 日...

日... 日...

日... 日...

日... 日...

手前と三才の若由役人惣代は一同
 村役人先河子江若由半可也
 丁字の依日渡候は、手前等と縁は
 乙三才の二生印の若由色を在日渡
 他に出し候末に手前等事
 他は立前渡候は、公幕場へ手前等
 切化の事、手前等と縁は、手前等
 事

己酉廿三日宛手前中務次下留書
 手前等書、手前等と縁は、手前等
 同部手前等と縁は、手前等
 手前等と縁は、手前等

大目付

日蓮正宗

成河寺

日渡

右村役人惣代

手前

手前等と縁は、手前等

足伴

手前等

手前

八

同部

手前

手前等

右村役人惣代

手前

手前等

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

岩屋 沢左衛門

古く者元時令初表仕年在延元

出下

同部

四丁

河多

己曾月... 右... 白... 村... 方... 本... 別... 所... 在... 留

里... 抄... 事...

山村	窪田	池	清	高
白井	淑	源	八	

此... 中... 家... 姓... 氏... 村... 向... 表... 主... 年... 相... 在... 山... 元... 正... 年... 延... 元... 在...

然... 元... 正... 年... 延... 元... 在... 未... 止... 一... 年... 正... 年... 延... 元... 在... 仰... 承... 元... 正... 年... 延... 元... 在...

達... 寺...

山... 元... 正... 年... 延... 元... 在... 仙... 元... 正... 年... 延... 元... 在...

古... 者... 元... 正... 年... 延... 元... 在... 材... 役... 人... 在... 協... 同... 中... 山... 元... 正... 年... 延... 元... 在... 江... 元... 正... 年... 延... 元... 在... 山... 元... 正... 年... 延... 元... 在...

己酉月

山形後免無取
山江清法師
白井取義

池内清法師
市川清法師
白井清法師

以上各致致書地之儀之類
七村六寺の御書
國成師子日溪
之書
表
所
地

十二月九日

清隆文

成約寺

名所御書

寺社
諸
部

一 諸家此書

此
お止

何

山形

手抄本

本道中三在懸紙のありし事
江平志抄本にあり

月

中修又四知り

誰

手抄本

右方より江平志抄本可也

月

一方分此集より修し高に道

誰

手抄本

本道中三在懸紙のありし事

月

中修又四知り

誰

手抄本

右方より江平志抄本可也

月

中修又四知り

誰

江平志抄本

一彈を懸り修し高に道

當年

尚書

穰多澤を以て下海に...

中ノ四村地を以て...

中ノ地を以て...

七月廿七

一 千村平古奥の四村而後入...

公事方四抄之...

一 定政五五年三月...

一 定政五五年...

他例...

石河...

股部信...

古打...

人...

有...

高...

二月七

一 天の八申年

紀伊...

松平...

紀伊...

紀伊...

中本...

大...

古...

抄出通達七等一紙在土手町引渡可
しるす定案一紙入申の初紙を方上可
し紙出言申す所を以て紙跡後行
八月十三日

文化三堂年

約及北書局紀也 松平右京亮

四紙五口

古之書を以て生身止総國万石村
全勝寺一併在書券中御守に
しるす少少五等付松平紀伊守西多
合上申す所紙跡後行

八月十七日

同年

石川河邊紙 松平右京亮

伊豆守

高島下曉七等付洋定案出書

出紙跡後行

其の在り

同年

天祥近江紙 松平右京亮

甲斐守

小田切流八等

古之書物等成りしるす所紙跡

四州地方に在る所中諸君に宛て

九月十九日

定政之節十月十日尾張郡以取付上
流也

松平紀伊守

先年三月に於て諸君に宛てた書状に

以て此張紙取付上之書状に附る

書状一紙申上り申上り九月廿日

定政之節十月十日

十月十日

定政之節十月十日松平信之丞より宛て

送し

松平紀伊守

以て宛て

先年三月に於て諸君に宛てた書状に

以て此張紙取付上之書状に附る

書状一紙申上り

同年

曲淵甲斐守

松平右京亮

以て宛て

以て宛て

先年三月に於て諸君に宛てた書状に

正可致我... 既... 既... 既...

五月十九日

定及七卯

曲閣甲斐... 既... 既...

山... 既...

古... 既... 既...

流... 既... 既...

既... 既...

四月十九日

同年

曲閣甲斐... 既... 既...

中... 既... 既...

越... 既... 既...

入... 既... 既...

解... 既... 既...

送... 既... 既...

既... 既...

四月十九日

一... 既... 既...

役... 既... 既...

高... 既...

既... 既...

既... 既...

既... 既...

本寺者道中より進出する所なり
三月九日

一月半日人方より多量に在る所なり

馬野山寺住持

高祖院

遍照光院

智海敬院

金剛頂院

古くは平家公よりなりて今は
なり

定長公已

根岸北の山 寺井古の院

岸田山寺住持
奥村伊豆郡寺住持

名
味松山

古くは上押家よりなりて今は
高祖院より代りて寺住持好光代り
難波山寺住持法平同村住持
定六同寺住持寺住持寺住持
寺住持寺住持寺住持

十月十九日

寛政十年

菅沼市郎政^右 伊予右兵衛

伊予右兵衛

三

古元^三 菅沼市郎政^右 伊予右兵衛
同州七形村^上 掛^上 用水^上 菅沼市郎政^右
伊予右兵衛^上 伊予右兵衛^上 伊予右兵衛^上
分^上 伊予右兵衛^上 伊予右兵衛^上

寛政十二年

口教^上 伊予右兵衛^上 伊予右兵衛^上

口教^上 伊予右兵衛^上

要形^上 伊予右兵衛^上

岡田春加

古^上 菅沼市郎政^右 伊予右兵衛^上

ト^上 菅沼市郎政^右 伊予右兵衛^上

十二月廿

菅沼市郎政^右

菅沼市郎政^右 伊予右兵衛^上

山口^上 菅沼市郎政^右 伊予右兵衛^上

菅沼市郎政^右 伊予右兵衛^上

菅沼市郎政^右 伊予右兵衛^上

菅沼市郎政^右 伊予右兵衛^上

高宿社中身是也此に抄するは
及とて是と曰く身は此の地
宅は可まらぬ是又法本寺に
渡りぬ

十一月五日

甲用開所人等一

天の元年

甲賜物より況に 牧野浦野

甲賜物三事

古より抄するは
甲賜物より況に
甲賜物より況に

とありて
磯山出入り
甲賜物より況に

甲賜物より況に

此二箇月より八月

甲賜物より況に

定之由

甲賜物より況に

甲賜物より況に

甲賜物より況に

甲賜物より況に

甲賜物より況に

右ノ者中ノ...
...
...

二ノ...

責任ニ交

阿部...

常...

...

右ノ者...
...
...

...

...

...

...

...

...

...

右ノ者...
...
...

馬骨荷切押作の西國人代有書

海軍軍醫長 藤田 卯吉

正月十日 藤田 卯吉

此の甲後 三年 藤田 卯吉

藤田 卯吉

十二月

同十月十九日

根岸地蔵堂 山科由利

深川

淨心寺

右の者 此 山科 由利 山科 由利

此 山科 由利 山科 由利
山科 由利 山科 由利
山科 由利 山科 由利
山科 由利 山科 由利

十月

同十二月

山科 由利 山科 由利

藤田 卯吉

左 山科 由利

大 山科 由利

右の者 九 山科 由利 山科 由利

山科 由利 山科 由利 山科 由利

十二月十日

文徳二四月十日

出向

大久保

押上

曹洞宗

代新

四日

文徳二丑

大田

北野

本

本

武守

文徳

山

大久保

利

古

利古

山形... 地方... 此... 乃... 之... 也

五月

文化三書

尾張

山形

大正

先... 後... 建... 治... 中... 國...

同由西... 念... 村... 之... 惡... 也

... 中... 古... 班... 湖... 系... 評... 是... 所... 占... 少... 之... 年... 所... 始... 也

十一月九日

十四人足寄堀引渡西書付

一 無宿... 堀... 引... 渡... 西... 書... 付

... 堀... 引... 渡... 西... 書... 付

書... 堀... 引... 渡... 西... 書... 付

日向

...

...

...

...

...

...

...

十四

定學... 三月... 二十... 日... 始... 檢... 官... 年

出溜と云ふ場には心付く事と
溜人は是等事と云ふは其れ其れなり代り者
只検使公の事

世宗公の事
流同公の事

一 難細く書付所一山検使左分等
揚役人上引後あり

十五 関所一達書

一 諸事留り候に事ありて日向事
向より上り事あり候事通

一 山籠り候事通

丹波中務佐野村
而此物に事あり

之等事

文七

本者元所有一田畑は其れ其れなり
只所一山籠り候事通

世宗公の事
子十月

一 山籠り候事通 世宗公の事

山籠り候事通

日蓮宗

妙國寺
日體

本日體所持之我相之云々所付
以代及上之云々事

信者付之云々事及云々所付

在云々

一六名之云々通

四所

我持之書之云々事

上所

九之物

本者所持之田畑家内家外
之云々所付之云々事

信妻之云々事及云々所付

八月

一江戸所入之云々所付之云々事及
お新屋別在之云々所付之云々事
之云々事

村之肥後坂

中善徳印善美云々所付

在云々所付

岳藏

本者所付之云々所付之云々事及
之家所付之云々所付之云々事
之云々所付之云々事

出家村之故抄子代金物抄
仙石一件抄所送之定書
付之在信入之書中送
事之要細一件抄之

十六
寺社新之御事所行

一 定取之書年四抄定方之新出
与甲申之書

抄之之懐友
抄年記保子

後河内守村山渡弓所

百五
壬午九月

又吉野門

古字田山抄之山法鏡及之新
出牙法紙以自名に抄紙中紙紙
之抄子

二月

一月年所奉り

初鹿野河原に
抄年記保子

御事控稿

石動院

妙皇后

十六

古く者大橋橋所方高底仁乎以
時能通乎四命新し多牙幸如最
所上能通後各中身勝も以牙新
此能一能通後之四通中

三月

一完及四手事四即定中下

折中之儀也 院

社務之儀也

山田勘次

古く者新し多牙幸如最
折中之儀也

山田

二月

一完及四手

折中之儀也 院

古く者新し多牙幸如最
折中之儀也
此能一能通後之四通中
所上能通後各中身勝も以牙新
時能通乎四命新し多牙幸如最
古く者大橋橋所方高底仁乎以

九月

四書南之... 德性氣新完... 此以
... 德性氣新完... 此以
... 德性氣新完... 此以

年九月

柳生之德正

文化五版

根岸北前坂 抄年七月

御草 柳生寺中

法融寺

本之者... 德性氣新完... 此以
... 德性氣新完... 此以
... 德性氣新完... 此以

寺所而此仁... 德性氣新完... 此以
... 德性氣新完... 此以
... 德性氣新完... 此以

八月

四書南之... 德性氣新完... 此以
... 德性氣新完... 此以
... 德性氣新完... 此以

九月

根岸北前坂

十七 盜らぬ也財物違事

一 寛政五年

山口守佐友

引定申付事 永吉十月七本 紛失
跡 毎届望 古日 依 申 未 供 如 所 在
又 跡 申 上 事 の 事 々 々 下 地 所 在 申
此 所 跡 申 付 事 々 々 下 地 所 在 申

十一

此 迹 申 付 事 々 々 下 地 所 在 申

尚 七 本 追 申 上 事 諸 道 々 々 様 々 傷
皆 申 上 事 出 張 上 事 皆 申 上 事 皆 申 上 事

所 以 跡 申 上 事 諸 道 々 々 様 々 傷
皆 申 上 事 出 張 上 事 皆 申 上 事 皆 申 上 事

一 胎 差 一 胎 差 任 國 具 長 三 寸 守 念
目 新 出 一

一 數 白

一 目 母 胎 申 上 事 諸 道 々 々 様 々 傷
全 包 皆 申 上 事

一 級 浪 罰 一 全 級 浪 罰 二 但 跡 申 上 事 無
程 定 申 上 事

一 切 羽 金 差 一 枚 切 上 一

一 批 浪 差 一 枚

一 鞘 燻 色

一 鷲 目 赤 銅

一 簿記送還

一 取角柄系玉芝學

一 少緒玉系

一 方通山社公堂

清江社系

宣統三年十月七日

南宮社解

寺社印奉行所

印役人 元中候

一 宣統三年四月

元 山田社印

批發支取羽田友直山田社印

堂内山田社印部入口戸程物迄

此後在取留書中 去月 何々 倉庫迄

押元程物檢印送呈紙入古書箱而

持一紙紙別家一通之送呈所可

解一書物程物有在書山田社印係

一書山田社印係有在書山田社印

永年三月三日 山田社印

印

山田社印

羽田友直

印

一 萬石山社

此

一 口細平茶 — 高純也

記

宗寺界一

古寺抄家内山守家所立監其
所立書面一通ありしに

已北了

相田為左

一 完政九乙年

小田守左

松平古系

長徳院

古寺徳院古寺守家所立監其又

新修寺古寺守家所立監其
古寺守家所立監其別家
所書一通内通平山守家所立監其
古寺守家

二月

一月

村立北後坂古寺守家

白谷 西然寺

古西照寺古寺守家所立監其
古寺守家所立監其古寺守家所立監其
古寺守家所立監其古寺守家所立監其

書抄御定事... 西思寺... 十月

又化二丑

根岸北... 市苦南... 衣益... 一脛... 走通... 新免... 高名... 之の

四月

法部省に和書を通函

根岸北野坂に 北野山院

之寺を所領と爲す及之を布告

南無妙法蓮華經 唐写本

唐写本 御抄本 御写本 一冊

味之土事 御抄本 取寄り

乃之御書

五年

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

十六 奉公人 繪巻 取寄り

一 支那の山家入り 御抄本

巻

一 寺社に引寄る 御抄本

御抄本

一 所より日暮 御抄本

完政七年

山中の御書

仁皇御正史の巻末に 御抄本
御抄本 御抄本 御抄本
御抄本 御抄本 御抄本

十六

或通抄信の事

四月

清状

通

筆意新書

通

清人の書

此之辨也

通

古一帯

定政九年

上田の書

帳取

此の書は支那の書に似て星野の書に似て
當に繪合の書に似て

改定抄信の事

清抄の事

七月

清状

通

筆意新書

清人の書

古一帯

筆意

他山好句

一文五反

根岸肥後

松平七郎

寺社奉行文部省御調役

西田全治

本庄仕中守宮殿跡 一ノ尾守別
宗通守宮守別跡 狀在日延
光切守跡 為右守跡

五年

是年奉公人 名尾守 一ノ尾守

給年奉公人 守跡 人の守跡

成者 守跡

十九 甲午禮三ノ終迄書

一十二月十五日迄 有是年正月三日迄

守跡 守跡

守跡

未正月 守跡 守跡 守跡

守跡 守跡 守跡 守跡

守跡 守跡

守跡

守跡

御軍 大護院

御軍 西福寺

御軍 妙國寺

十九

水光寺
慶永寺

古抄の御成書中未正月

卯年禮記の御成書

十二月

一年の御成書は寺社の御成書

中多分は寺社の御成書

の事

古抄の御成書は寺社の御成書

廿 拾礼案

一 拾礼案は山内法皇の御成書

の事

池田筑後守

引上り御成書

古抄の御成書は寺社の御成書

の御成書は寺社の御成書

の御成書は寺社の御成書

の御成書は寺社の御成書

八月

廿

小豆濃家傳式位行幸吉卜一帯

織機茶

三河室級新菰村

曹洞宗

曹洞寺

曹主

佛光

宣正一歳

此より後大鏡中合三河室級新菰村
村少林寺境の土蔵戸口より寺
と道入の山形新菰村新菰村新菰村
と道入の山形新菰村新菰村新菰村

新菰村新菰村新菰村新菰村
中より同是行一止新菰村新菰村
此より大鏡中教懐中分新菰村
新菰村新菰村新菰村新菰村
新菰村新菰村新菰村新菰村
新菰村新菰村新菰村新菰村
新菰村新菰村新菰村新菰村

新菰村

張年

山田新菰村

新菰村

新菰村

新菰村

新菰村

新菰村

其後在古山任重了海島科書
推北島別島和流山を中らむ山任
遠了揚治平物之者推を家未相
流山任下は是を山引揚を山引物
揚所用を是山中を是山平
了之山任平止晒三月九日午揚
所引く山任山任分推古來任任
也其野机山任山任推古來任任
支一山任山任山任山任山任
九ノ七年

推北集

東廠山

所化

吉善書房

在助所七年

以是年代法信之山分也是根律
定山何山七山全山地山女山の
之山揚山山山及山把山山山山
山物山之山山山山山山山山山
山山山山山山山山山山山山山
山山山山山山山山山山山山山

在九月

三美御合右通潤

山多之延改記

或命在系部多延村

山多御守

右而川海雲寺境向知く是地
中別島来引路通面之通彼路出
中河島分路引路通中河島
甲摩揚抄傳美多山御兼度
河心美多島分路引路通中河島
海及河島

二月

一 去月三月而川而川寺宗修平尼

通

甲摩揚抄傳美多山御兼度

而川

而川寺

右其後向宗修平尼引路通面
通陸路島分路引路通中河島

甲摩揚抄傳美多山御兼度

二月

口多之無此記也

而川而川寺別家之通經之經

通中計之記

川寺傳抄傳記等之印系及

記也

二月

此記以之古四經了之之經經

并此寺經世之海中出現又云

經像之細社并此經經之在

川寺之記之細社及之抄經

何年 川寺之記之抄經

口多之無此記也

口多之無此記也

三月

川

川寺

寺社

川寺行而

又此五取

川寺之無此記也 寺之無此記也

是

川寺

右後向山山經家年未之經破

檢錄一修後之記之寺之建時

而此九修之記之此及而此九修

之記之此及而此九修之記之此及

出 永 新

伊 勢 場 永 新 乃 之 名

八月

廿二 相對 劔 化 方

一 伊 府 内 河 中 抄 對 劔 化 乃 之 名

在 通

初 年 河 内 也

松 平 地 守

抄 三 浦 抄 核 温 村

長 河 守

古 河 池 河 中 抄 對 劔 化 乃 之 名

抄 三 浦 抄 核 温 村

伊 勢 守

十二月

伊 勢 守 乃 之 名

切 放

伊 勢 守 乃 之 名

西 抄 乃 之 名
抄 三 浦 抄 核 温 村
伊 勢 守 乃 之 名

日 向 守 乃 之 名

抄 三 浦 抄 核 温 村 長 河 守

廿二

正月朔日... 四月朔日... 河内... 封...
化... 在... 名... 山... 出... 記... 中... 卷... 之... 九...
子... 子... 正... 山... 平... 入... 分... 紀... 紀... 子... 子...
三

十二月九日

在... 上... 包... 竹... 石... 色... 古... 寺... 宗... 子... 氏...

後... 寺... 代... 友
中... 方... 在... 寺... 友... 友
三... 岳... 池... 山... 寺... 友... 友
三
三
三

相... 州... 三... 浦... 勿... 控... 以... 聖... 村... 七... 郎... 幸... 康
正... 月... 朔... 日... 四... 月... 朔... 日... 河... 中... 封... 封

知... 地... 之... 名... 名... 西... 受... 能... 下... 町... 之... 名... 名...
王... 戶... 寺... 友... 友

三
三
三

後... 寺... 寺... 友... 友
中... 方... 在... 寺... 友... 友
三... 岳... 池... 山... 寺... 友... 友

山... 前... 傳... 通... 院... 代... 友
後... 寺... 寺... 友... 友

日... 福... 院
日... 福... 院

牛... 込... 湖... 抄... 寺... 友... 友
去... 世... 傳... 友
慈... 光... 院

巡行物鑑承四月二十日
日敷二十日 是日 巡行物鑑
通記 巡行物鑑 巡行物鑑
巡行物鑑 巡行物鑑 巡行物鑑
以上

三月廿六

本國防 巡行物鑑 巡行物鑑
所 巡行物鑑 巡行物鑑

松平紀伊守

三月廿六

巡行物鑑

一覽政四子年三月

巡行物鑑

上級市面物鑑

巡行物鑑

根中常經

巡行物鑑 日敷九十九

巡行物鑑 巡行物鑑 巡行物鑑

巡行物鑑 巡行物鑑 巡行物鑑

子二月

田村程吉

巡行物鑑

日向

上野市系勅第...

儿...

根...

子...

日数九十...

伊...

...

...

...

子...

|||

大...

信通... 濱...

古...

...

子...

|||

信...

濱...

信...

...

...

...

淺草寺傳友

柳原正定人後

菊池山左衛門

護持院

後年中

牛込所松平

後年中

百年板倉御

一伊丹右衛門對知此書の御

定より上もまゝとし右通

町

初康河内後

上原正徳助定井村

正勝の御記

早稲田記

長成寺の御記

四ノ宮の御記

北平の御記

伊丹右衛門對知此

書の御記

多奈名之巻

伊丹右衛門

雨

四記

曲阿甲斐後

|||

|||

古抄紙巻名 御郡名 〇〇〇〇
伊府内 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇

西 十二ノ月

左ノ向 〇〇〇〇 〇〇〇〇

東ノ向 〇〇〇〇

日数 九ノ日

伊府内 〇〇〇〇 〇〇〇〇

右國 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

十〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

西 十二ノ月

田村 〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

西 十二ノ月

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

一 定以九百本

元 久保田佐清

收得傳寫

京上多自村桂其代中津常力御書
亦最亦最後云國お對知化却
河上右一國北十元元一
官州お版巡内所一の御書
此の書亦最亦最後云國
四代及上中後有之御書

九月日

廿三 穿回法

一字因十身亦或十西の御書
上包山豆法或旅村一の通
其書亦不係非常の御書
但此を一過の御書
亦此の御書亦不係非常の御書
其書亦不係非常の御書
一 本寫以是法亦能合
山後使上御書

字同書符

小田切書後

紙版法書

何國何村誰同書

一別字，其書法，皆以字同，且其

札，亦所難辨，一其上下，其書法，皆

川一其書法

尚切書後

別字，其書法，皆以字同，且其

以字同，其書法，皆以字同，且其

字同，其書法，皆以字同，且其

字同，其書法，皆以字同，且其

字同，其書法，皆以字同，且其

尚切書後

字同書符

其字，其書法，皆以字同，且其

昭憲天皇御紀
孝安天皇御紀
聖德太子御紀
皇極經世一書
皇極經世二書
皇極經世三書
皇極經世四書
皇極經世五書
皇極經世六書
皇極經世七書
皇極經世八書
皇極經世九書
皇極經世十書

皇極經世一書

皇極經世二書

皇極經世三書
皇極經世四書
皇極經世五書
皇極經世六書
皇極經世七書
皇極經世八書
皇極經世九書
皇極經世十書
皇極經世十一書
皇極經世十二書
皇極經世十三書
皇極經世十四書
皇極經世十五書
皇極經世十六書
皇極經世十七書
皇極經世十八書
皇極經世十九書
皇極經世二十書

皇極經世二十一書
皇極經世二十二書
皇極經世二十三書
皇極經世二十四書
皇極經世二十五書
皇極經世二十六書
皇極經世二十七書
皇極經世二十八書
皇極經世二十九書
皇極經世三十書
皇極經世三十一書
皇極經世三十二書
皇極經世三十三書
皇極經世三十四書
皇極經世三十五書
皇極經世三十六書
皇極經世三十七書
皇極經世三十八書
皇極經世三十九書
皇極經世四十書

乃多親の如く不便を存すべし致し
進言相対し引替ふ事、所し進言
中しより一六行後、此後を以て
補任候と心得居るに御座候は
出を方か請ふ事、御座候事
、後を御座候事と致し出入し不
拘却ら御座候事、此後を以て
其方と致し如法に一五先を以て
此後を以て御座候事、此後を以て
是又其方御座候事、此後を以て
者、此後を以て御座候事、此後を以て

と致し御座候事、此後を以て
此後を以て御座候事、此後を以て
一、此後を以て御座候事、此後を以て
先道理と致し御座候事、此後を以て
此後を以て御座候事、此後を以て
此後を以て御座候事、此後を以て
此後を以て御座候事、此後を以て
此後を以て御座候事、此後を以て
此後を以て御座候事、此後を以て
此後を以て御座候事、此後を以て
此後を以て御座候事、此後を以て
此後を以て御座候事、此後を以て

因如似世若一補任之刻室
曆五奉一妙老院莊所一全摘地
補任之其方全自奉一其古
殊一自一其不之其一補任
其一其古同奉一其形一其不
一其的五年分其五年以分一其同
其一似一補任之其一其補任
業一由一其能一其用一其使一其同
其一其分一其合一其清一其其一其
其一其一其合一其其一其補任之其
其係判其一其一其一其一其

其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其

其九月

其係判其

其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其
其係判其一其一其一其一其

此書乃... 十一月十日

十一月十日

程公... 舟同... 抄... 永年... 抄... 已上

本流... 京...

柳系...

他... 正...

白狀書
仁...

有... 柳...

向都下...

○業什
別家以修山衆徒の初場京終
関古美左之角半間之々如致
後所の止り限之角河半間之々
致致致

十一月

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '山' and '衆' visible in a rectangular frame.)

雜之部

一 諸家場之在る所其社支配
向之々々々々々々々々々々々
他社社之々々々々々々々々々
切用之事々々々々々

一 山之修廻落之々々々々々々
蹤々々々

一 山利状早之山古上西復々々々
岩城之々々々

一 山山了之山々々々々々々々
一 山山役校之山々々々々々々

一 山嶺之花束 硯箱も美なり
一口書中紙十上中宮四書留を下
半糸巻也

一 山留綴紙四細糸半糸巻也 是日
向半留綴紙入美なり

一 水圭下ん四書留花給當下一山
花用之四書留糸糸巻四書留
出中

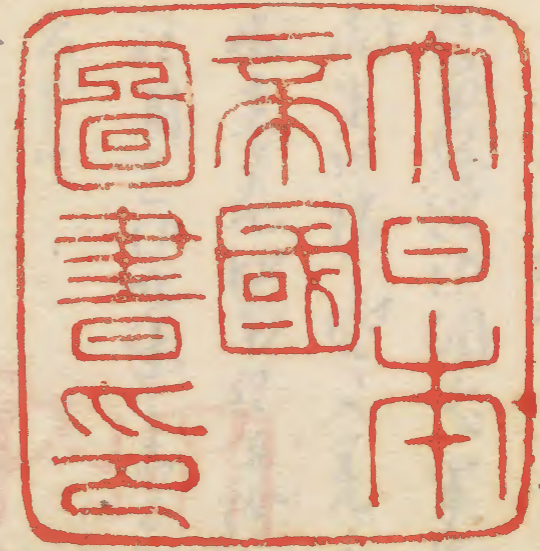
他中書留用之糸巻握之糸巻
出中

山留綴紙も美なり

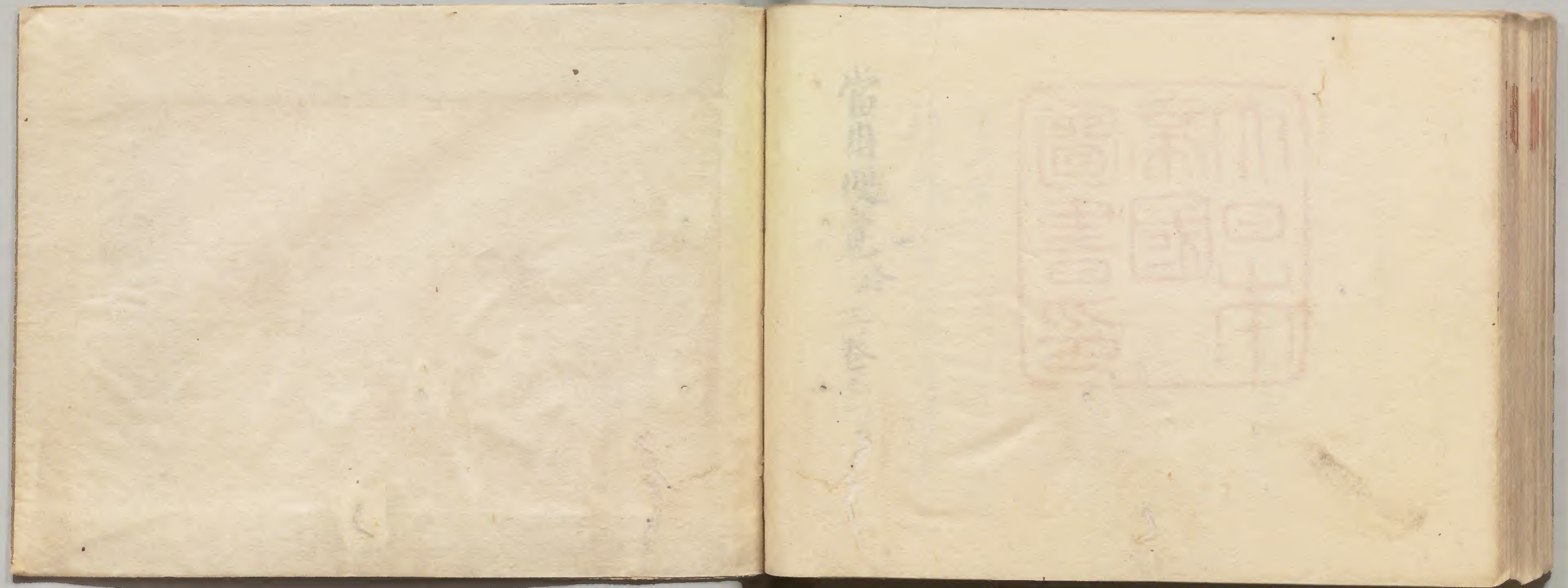
美なり

山留綴紙も美なり
可なり





當用便覽終
三卷之内



新刊圖書
卷之四

新刊
圖書

